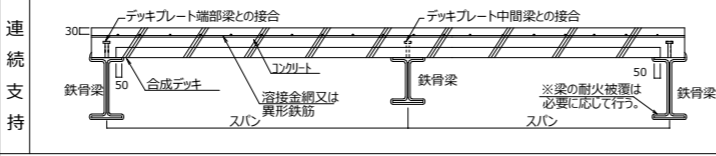


合成スラブの設計・施工は(一社)日本鋼構造協会編「デッキプレート床構造設計・施工規準」(一社)日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」(一社)日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説のうち」JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事、合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構法 合成スラブの設計・施工マニュアル」、日鉄デッキプレートカタログ及び設計・施工便覧による。

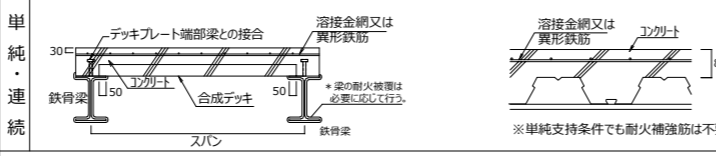
1. 設計

Table with columns for product name, specifications, and options. Includes sections for Deck Plate, Concrete, and Joint Details.

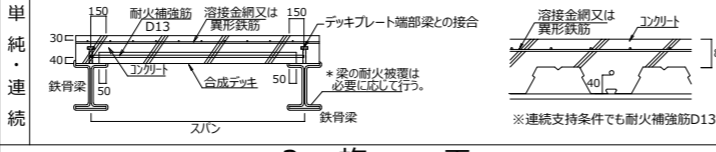
FP120FL-0178-1, -0196, -0213 ※耐火補強筋不要、中間梁との接合は焼抜き栓溶接可



FP120FL-0187-1, -0198-1 ※耐火補強筋不要、梁との接合は頭付きスタッドのみ

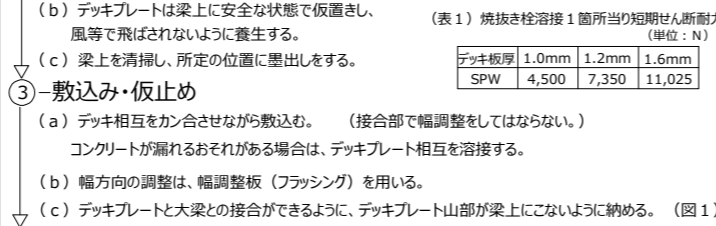


FP120FL-0222, -0215 ※耐火補強筋必要、梁との接合は頭付きスタッドのみ

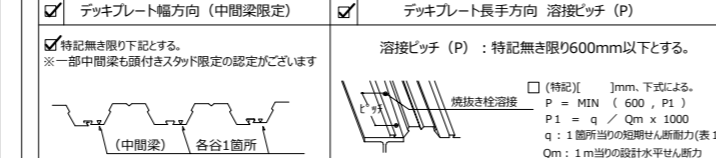


3. 施工

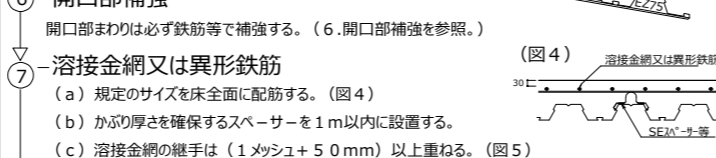
- 1-割付け計画
2-搬入・保管・揚重・仮置・墨出し
3-敷込み・仮止め



- 4-合成スラブと梁との接合
5-小口ふさぎ・コンクリート止め
6-開口部補強



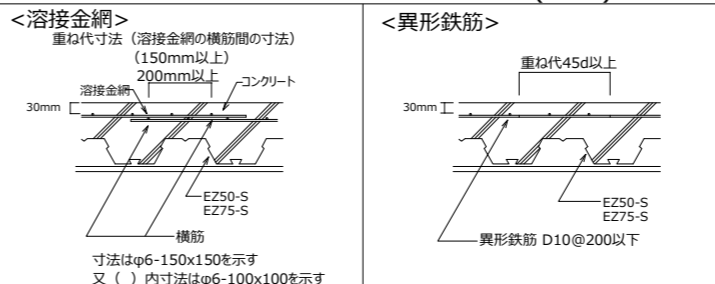
- 7-溶接金網又は異形鉄筋
8-コンクリート打設
9-養生



- 10-養生
11-養生

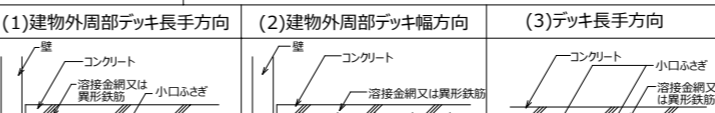
- 12-養生
13-養生

4-1. 溶接金網又は異形鉄筋の納り(共通)

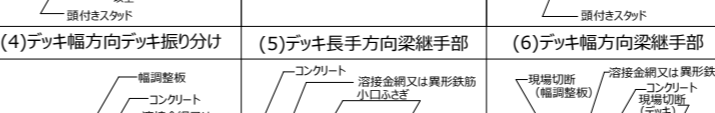


4-2. 標準納まり:S造(鉄骨造)の場合

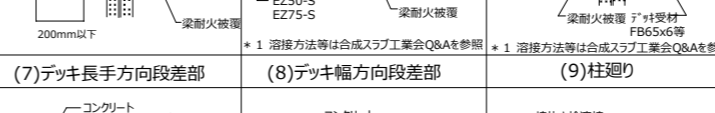
- 1-建物の外周部デッキ長手方向
2-建物の外周部デッキ幅方向
3-デッキ長手方向



- 4-デッキ幅方向デッキ振り分け
5-デッキ長手方向梁継手
6-デッキ幅方向梁継手



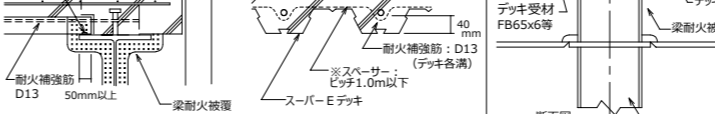
- 7-デッキ長手方向段差部
8-デッキ幅方向段差部
9-柱廻り



- 10-耐火補強筋の納まり(FP120FL-0222, -0215)

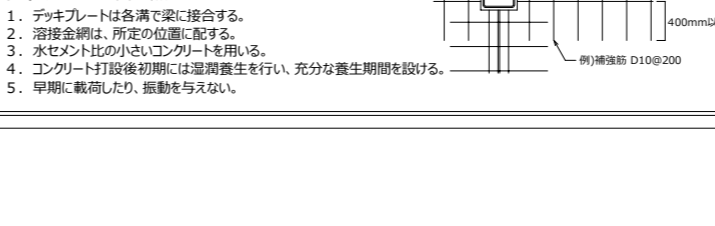


- 11-開口部補強



5. ひび割れ拡大防止のための留意点(参考)

- (A) 設計上の留意点
(B) 施工上の留意点

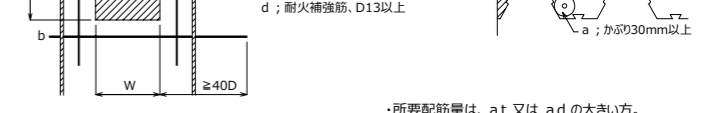


6. 開口部補強(例)

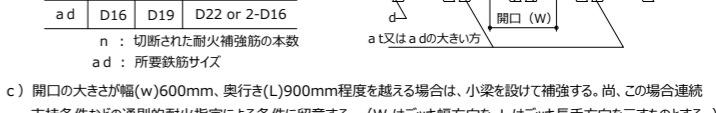
合成スラブの開口部補強... 原則としてコンクリート硬化後にデッキプレートを切断し、孔あけ(箱抜き)とする。



- a) 溝配筋方法
b) 耐火補強筋を切断する場合



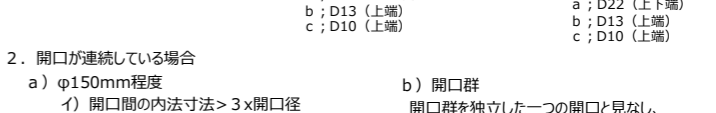
- c) 開口の大きさが幅(w)600mm、奥行き(L)900mm程度を越える場合は、小梁を設けて補強する。尚、この場合連続支持条件などの通則的耐火指定による条件に留意する。(Wはデッキ幅方向、Lはデッキ長手方向を示すものとする。)
d) 連続して3谷(デッキ溝)以上に渡って開口が生じ、耐力補強筋が配筋できないような場合は適用外とする。



- (A) 箱抜きの場合
1. 開口が独立している場合
a) φ150mm程度
b) □300程度
c) □600x900程度



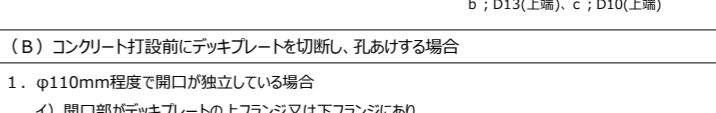
- 2. 開口が連続している場合
a) φ150mm程度
イ) 開口間の内寸法>3x開口径
b) 開口群
開口群を独立した一つの開口と見なし、□600x900程度の開口部と同様の補強とする。



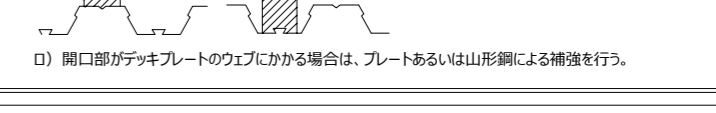
- ロ) 開口間の内寸法≤3x開口径
a) φ150mm程度
イ) 開口群
開口群を独立した一つの開口と見なし、□600x900程度の開口部と同様の補強とする。



- ウ) 開口間の内寸法≤3x開口径
a) φ150mm程度
イ) 開口群
開口群を独立した一つの開口と見なし、□600x900程度の開口部と同様の補強とする。



- (B) コンクリート打設前にデッキプレートを切断し、孔あけする場合
1. φ110mm程度で開口が独立している場合
イ) 開口部がデッキプレートの上フランジ又は下フランジにあり、ウェブにかからない場合は補強の必要はない。



- ロ) 開口部がデッキプレートのウェブにかかる場合は、プレートあるいは山形鋼による補強を行う。